

三重 PECS サークル 第 23 回研修会 報告

開催日時	6月1日(土) 13:00~15:30
場所	三重病院 大研修室
テーマ	高等部の実践 ~小学部、中学部、高等部の実践を振り返りながら~
参加人数	35名

1. AさんとBさんの実践発表

某支援学校 A さんの小学部から高等部、B さんの中学部から高等部の実践発表。

	A さん	B さん
全体説明	支援学校小学部から高等部卒業までの実践発表。小学部ではブックを使った PECS やスケジュールを行う。中学部ではスケジュールがタブレットになり、高等部は PECS が iPad PECS になった。	中学部から支援学校に入学。中学部と高頭部の実践発表。 場面緘黙がある生徒さん。中学部 2 年生から PECS を学習。高等部は iPad PECS に移行し、筆談やメモを使ったやりとりも併用した。
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生で担任。すでに PECS を行っていたが、頻繁に他害があった。 ・PECS のブックを見ると、支援者が伝えたいものが絵カードになっているように感じた。強化子アセスメントをし直し、ブックの絵カードを新しく作り直した。フェイズ I からやり直した。 ・フェイズ VI のコメントまで指導を進めながら、援助や休憩の要求、スケジュールや待つの理解等、いろいろなコミュニケーションのスキルの学習を進めた。情緒が安定し、他害が減った。 <p>【発表者：石井幸仁（あゆみ特別支援学校）】</p>	
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部からスケジュール、コミュニケーションブック、課題等を引き継いだ。落ち着いて中学校生活をスタートできた。固執したアイテムやスクールバスの要求をした時期があり、やりとりに苦労した。 ・2年生になり、スケジュールの提示量が増たので、iPad のたすくスケジュールのアプリを支援で活用した。移行はスムーズで家庭でも使用した。 ・次の日のスケジュールを提示した。長い見通しが持て、より安定した。 ・頭痛や腹痛等、生理的不快感の表出が課題となった。 	

	<p>【発表者：石井圭子（くわな特別支援学校）】</p> <p>【発表者：後藤幸代（杉の子特別支援学校）】</p>	
<p>高等部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部に入学し、就学奨励費を使い、iPad を購入してもらう。PECSIV+のアプリをインストールし、実践を行う。 ・音楽、給食、国語・数学、自立活動、トイレ、現場実習等で要求やコメント（「できました」の報告）の学習を進める。 ・友だちに要求することもあった。家庭と連携し、進められた。 <p>【発表者：浜田佐知子（石薬師分校）】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな学習を試みた。絵カードの学習を進めながら、○×の表出でのやりとりを行った。明確な表出がないこともあり、うまくいかなかった。「おはなしメモ」を使って指導したこともあったが、書くのが面倒なようでうまくいかなかった。 ・iPad PECS を使った学習を進めた。いろいろな場面で自分からの発信が増えた。 ・挨拶をしたり、先生を呼んだりすることが増えた。「ありがとう」も伝えるようになった。 ・生徒同士のかかわりが増えた。ダンスしたり、歌を歌ったりすることもあり、笑顔が増えた。 <p>【発表者：浜田佐知子（石薬師分校）】</p>

2. グループ協議

【A グループ】

- ・各学年や各学部、家庭や事業所等、引き継ぐ難しさがあるので、引き継ぎに動画を使うと良い。

【B グループ】

- ・支援計画に動画をつけて引き継ぐ。
- ・支援計画の「合理的配慮」の箇所に PECS を行うことを明記する。

【C グループ】

- ・要求の出ない子にどのように支援していくのか？
- ・（質問）「ください」「いきます」等の述語カードの使い分けがうまく指導できないが、どうしたら良いか？
（門先生の回答）まず、「いかせて」を教える。それに「いかせて」「ください」と指導していく。
- ・（質問）着替えの場面で、最初はカードの手順書のみで動いたが、段々飽きてきてしまうが、どうしたら良いか？
（久賀谷先生の回答）手順書は本人がわかって意味があるものになる。まだ、スキルが獲得できていないのではないか。「できる」「できない」「何をしたらできるか」のアセスメントがまず必要。スキルがあるなら、できていない理由を考える。モチベーションがないことも考えられるので、強化子を活用する。

【D グループ】

- ・PECS を行っても引き継いでもらうのが難しい。「カード作りが大変だから」「指導が難しいから」という指導が継続できない理由がある。
- ・動画を撮影し、それを引き継いでいくと、理解してもらえらることもあった。

【E グループ】

- ・ 当事者の悩み。小6で自閉症スペクトラム障害。SOSが出せない。コミュニケーションがうまくとれない。支援学校中学部の判定が出たが、地域の学校の集団での学習も捨てがたく、進学先を悩んでいる。ただ、環境が整ってなく、担任もなかなか理解してくれない。

3. 助言者の先生より

【久賀谷先生より】

- ・ 小学部から高等部まで支援を継続しているのが素晴らしい。支援もアナログからデジタルの移行等、成長に合わせ、ステップアップしているのも素晴らしい。
- ・ すぐにデジタルの支援を求めがちであるが、PECSはフェイズⅣまでアナログでじっくり指導することが大切。急いではいけない。iPad PECSは、フェイズⅣを習得してから始める。
- ・ iPad PECSの学習を始めてもPECSのブックは近くに置いたり、持ち歩いたりする。iPadの電源がなくなってもコミュニケーションできるようにする。
- ・ iPad PECSは、修学旅行や校外学習でもその場で写真を撮り、コミュニケーションするのに使える。とても便利である。

【門先生より】

- ・ 引き継ぎをし、9年間支援を続けるのは、なかなかできない。しかし、これで満足してはいけません。フェイズⅤ・Ⅵや重要なコミュニケーションスキルを組み合わせ、学習を進めていってほしい。
- ・ 引き継ぎは、「やることリスト」を参考にし、動画も添えて引き継ぎをしていくことが重要。
- ・ PECSは要求から教えるが、コメントも指導してほしい。学校は、行事、新しい活動、イレギュラーなこと等、コメントをする活動内容がたくさんある。
- ・ 体調と感情の表出は大事なので、できるように学習を進めてほしい。
- ・ 「iPECS」というネーミングをよく使っていたが、これからは「iPad PECS」と呼んでいく。iPad PECSは、その時、その場でカード作りができる。カード作りまでできれば、完全に自立できる。
- ・ PECSやiPad PECSは、自閉症の人だけでなく、選択性緘黙の人にも有効。自発的に表出するのが難しい人に大変有効。



研修会を終えて

小学部から高等部までPECSの支援が引き継がれたケースの発表だった。門先生がお話されたように、これで満足せず、フェイズや他のスキルの学習をどんどん進め、可能性を広げていかないといけない。

これからも引き継がれたケースや関係者と連携しながら進めているケースを話題提供していきたい。